

・平成24年9月15日(土)開催分

11 地域人材、外部人材活用事業	票数	提言内容
1 拡充 (1) 対象の拡大 (2) 事業の手法、内容の拡充 (3) 事業費の拡充 (4) その他	5 1 2 0 2	・市内全校区にこの事業を拡げるように努める。 ・「学校サポート協議会」、「学校応援団」の周知、拡大。ゲストティーチャーの拡大と地域との連携による目的の達成。学校からの一方的な要請だけでなく、ゲストティーチャー側からの人材の提示もあったほうが良いと思う。 ・人材の発掘方法として、地域内での人材の呼びかけ、PR。他地域からの人材活用を(特性のあるものは)。 ・学校サポート協議会の拡大充実、活用(郷土文化、炭坑の歴史)。 ・事業目的は重要であるが、事業内容が「場当たり」的な感があり、また、市教委としての役割が見えない。効果の検証も十分に行うことができていないとは感じられない。市教委として果たすべき役割は何か、という点を明確にし、教育現場や地域コミュニティへ必要な支援を行ったり、市教委が直接実施していく必要がある。取組については、生涯学習課や市長部局と連携して推進していく必要がある。その際、必要な事業費については適正に支出していくことも考えられる。なお、教育現場に必要な以上の負荷が掛かると本末転倒であり、屋上屋を架すような組織化を避ける等の配慮を願いたい。 ・現行事業の継続。活性化協議会および各団体との情報交換を行うとともに、地域で活動する人への研修(生涯学習課との連携が必要か。)、人数の増加が望まれる。
2 見直し (1) 事業の一部廃止 (2) 事業内容、手法の見直し ① 民間委託実施・拡大 ② 指定管理者制度の導入 ③ 自主財源確保(受益者負担等) ④ 対象の見直し ⑤ 手段の追加、改善 ⑥ 設定目標の見直し ⑦ 実施期間の短縮 ⑧ その他	1 0 1 0 0 0 1 0 0 0 0 1	・地域の人が児童生徒の問題を発見した時に連絡、相談できるルートを作る。また、事務事業シートに記載すべき「対象」は、「小中学校児童生徒、市民(あるいは地域住民)」ではないか。 ・学校応援組織に委ねているところが多く、更に同組織との情報の共有化、活動状況の検証が必要。
3 廃止 (1) 手段が目的化している (2) 達成手段として不適當 (3) 効果なし(薄い)・逆効果 (4) サービス受給者の自助努力・自己負担 (5) 行政の役割終了、民間実施 (6) その他	0 0 0 0 0 0 0	

(その他コメント)

・通学路の整備→年配の方の散歩コース化すれば、自ずと見回る。総合的な取組をお願いします。